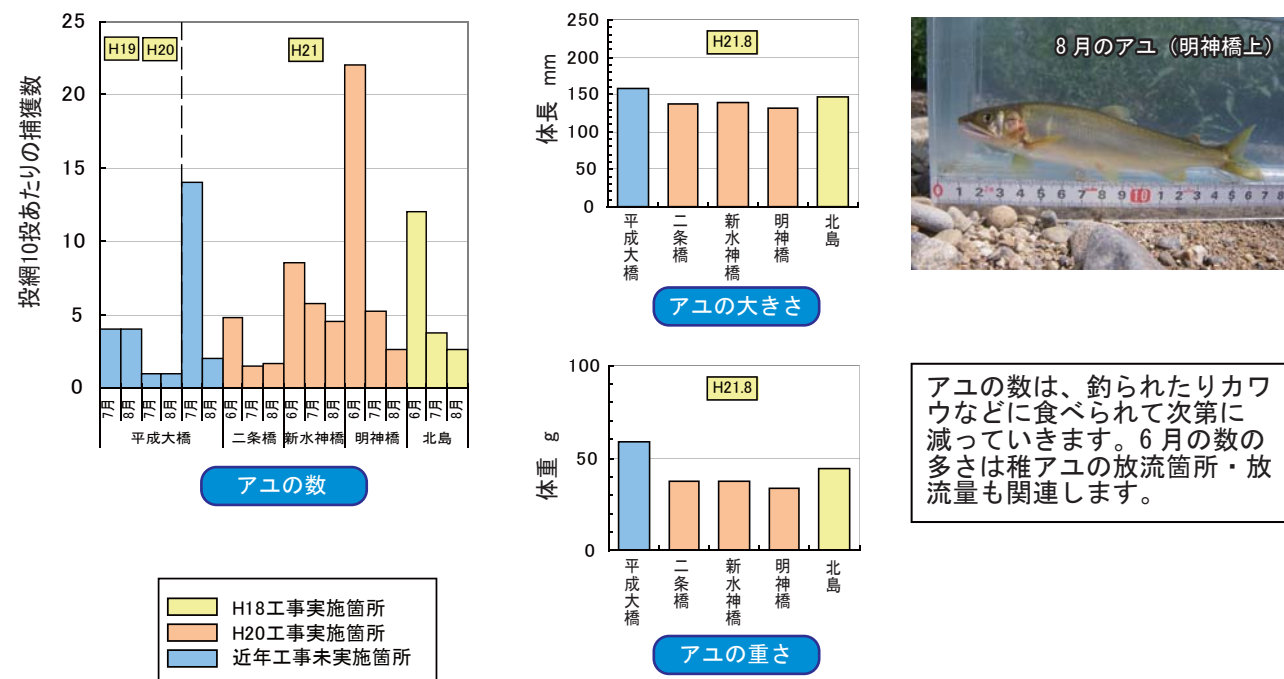


アユの調査結果

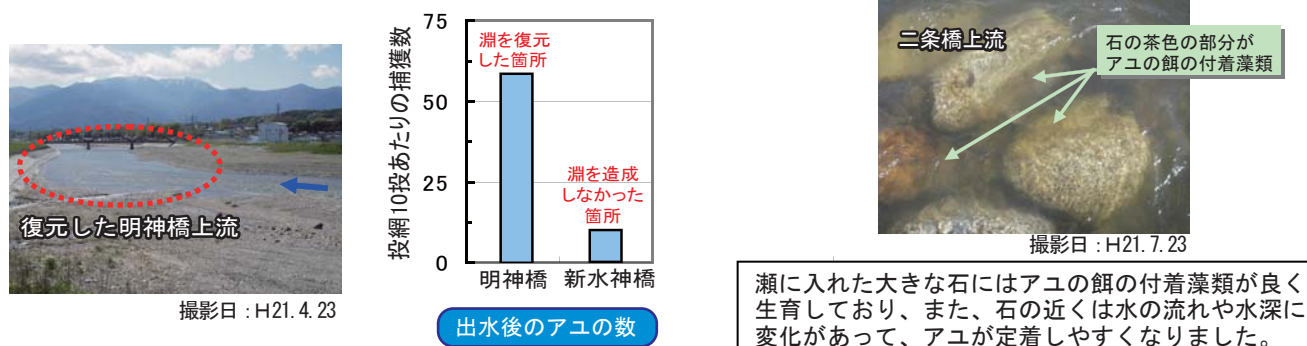
工事後のアユの成長の様子

- ◆全地点で6月から8月までアユの生息を確認でき、アユの数はH19・20年とほぼ同じでした。
- ◆今年のアユは例年より小さかったです。これは、天候不順が主な原因で、近隣の諏訪湖上流の上川・宮川や千曲川中流などでも成長が悪かったようです。
- ◆今年8月のアユの大きさ・重さについて、H20年度の工事実施箇所（二条橋、新水神橋、明神橋）と、H18年度の工事実施箇所（北島）・近年工事未実施箇所（平成大橋）の比較をしましたが、大きな差はありませんでした。



新たな瀬・淵でのアユの状況

- ◆淵の復元を試みた明神橋上流では、出水直後にアユが流れの弱い淵に集まっており、出水時に魚の避難場所となっていました。
- ◆大きな石を瀬に配置した二条橋などでは、石の周辺にアユが良く定着しており、その石をねらって竿を出す釣り人を多く見かけました。



今後も川の状態を見守り、少しでもよい方法を探して、「いい川づくり」を目指します。

豊かな水辺づくり・河川事業のことなら



笑顔、きらきら、天竜川。

天竜川上流河川事務所

〒399-4114 駒ヶ根市上穂南 7-10
tel 0265-81-6411 fax 0265-81-6421

最新の情報を知りたい時は…
URL <http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/index.htm>
E-mail tenjyo@cbr.mlit.go.jp

作成 平成 21 年 7 月 27 日
修正 平成 22 年 3 月 10 日

天竜川激特事業の多自然川づくり



天竜川上流河川事務所では、平成 18 年 7 月の豪雨被害を受け、再度の災害防止を図るため伊那伊北地区において平成 18 年度から 5 年をかけて、天竜川河川激甚災害対策特別緊急事業（激特事業）を実施しています。

河川工事によって、伊那谷名物のザザムシやアユへの影響が心配されるため、調査を行っていますが、このほど中間結果がまとまりましたので報告します。

激特事業の範囲



激特事業の工事前と工事後

① 北島（箕輪町）



② 伊那大橋下流（伊那市）



河川工事の進め方

多自然川づくりに関する指導・助言で事業計画を立案し工事を行います。

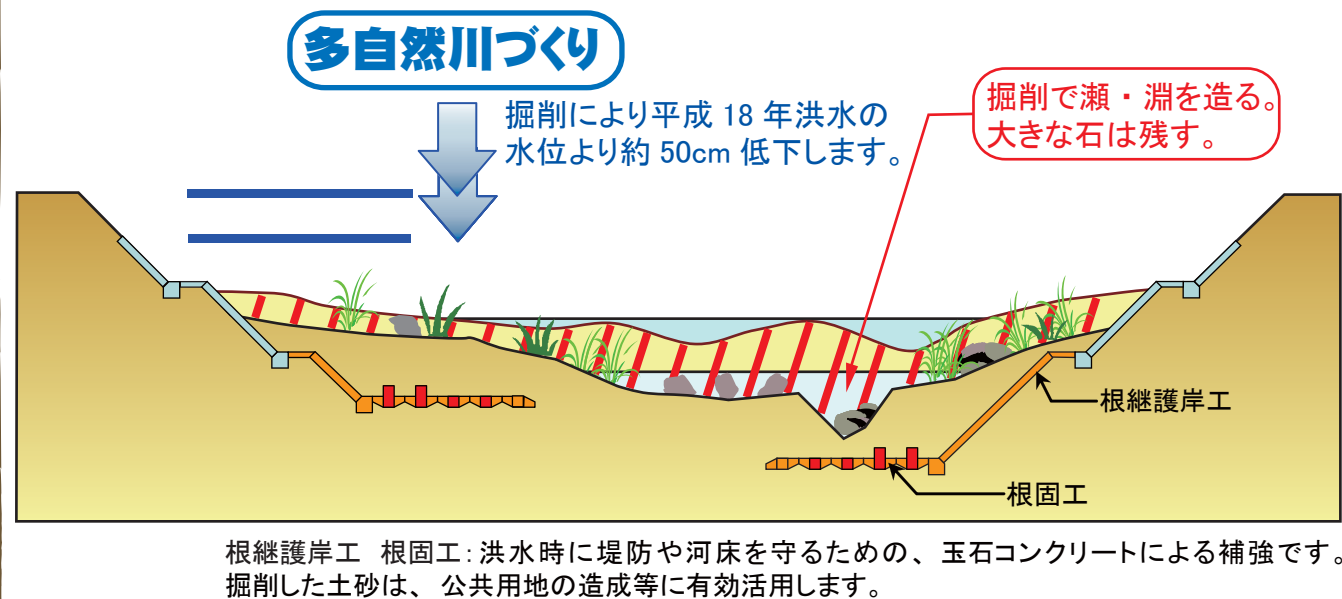
多自然川づくりアドバイザーの指導・助言

- ◆断面形状（勾配）を大きく変えない掘削とする。
- ◆護岸基礎および根固工の設置高は、洗掘傾向や掘削後の河床横断勾配を見通して決定する。
- ◆根固工が、水面よりも低くなるように整備することにより、瀬・早瀬・淵を持つ交互砂州の繰り返す天竜川らしい自然な河川景観を創造する。

地域からの要望・指導

- ◆河床が単調になり、深みや魚の待避場所がない。
- ◆大きな石を配置するなどして、魚等の良好な生息環境を創出してほしい。

瀬・淵を新たに造るように工事を行います。



「いい川づくり」を目指して

- ◆アユやザザムシなどの生息状況を見守り、工事方法の見直しを行っています。
- ◆学識者や地元の皆さんの助言・指導により、随時の見直しを行っています。
- ◆「伊那施工技術研究会^注」と国土交通省で工事方法追加等を検討し、生態に配慮して行っています。

注：伊那出張所の請負会社の技術者による研究会

ザザムシ・アユへの影響

天竜川名物のザザムシとアユの、工事中や工事後の影響や回復状況の中間報告です。

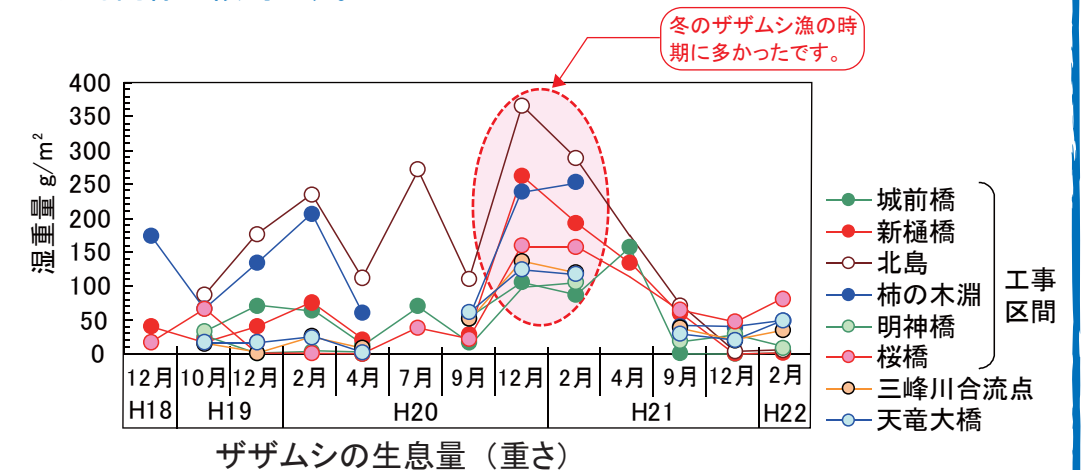
ザザムシの 調査結果

工事中のザザムシの成長の様子

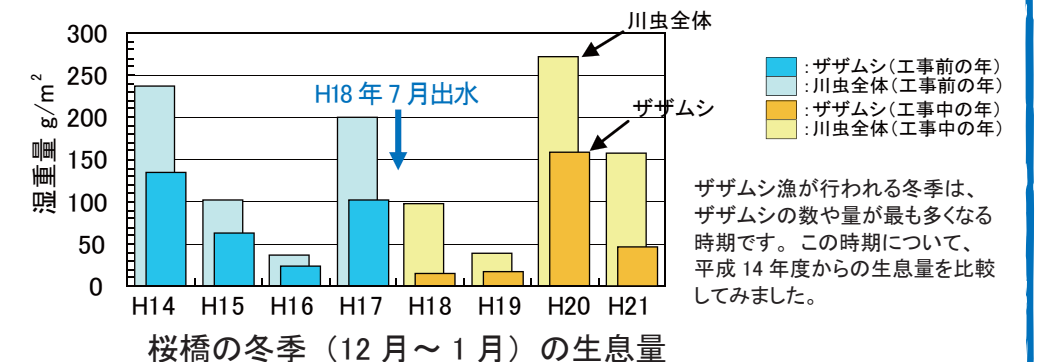
- ◆平成 20 年度は多く、平成 21 年度は減少しました。
- ◆ザザムシ以外の川虫も同様の傾向です。



ザザムシ
(ヒゲナガカワトビケラ)



川虫全体



ザザムシが 少なかったのはなぜ？

- ◆工事や長雨・季節外れの出水と考えられます。
- ◆工事で瀬・早瀬・淵の工夫を行っています。



仮締切の工事中に発生した濁りがそのまま下流に流れないよう、濁りの元である細かい砂を沈ませてから下流に流しました。

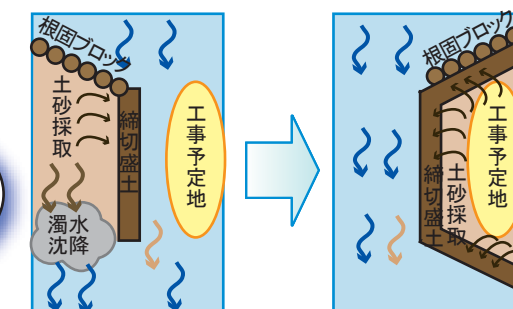
コラム 工事の工夫

工事中の濁りを長引かせない工夫

- ◆仮締切の工事を一斉に行いました。

濁りを少なくする工夫

- ◆仮締切の工事を見直して、濁りが少なくなる方法にしました。
- ◆工事中の濁りが流れないようにしました。



土砂採取を行う場所の上流に根固ブロックを置き、土砂が流れ出さないようにし、近くから土砂を集めることにし、そのための手順を工夫しました。

〔伊那施工技術研究会〕